

## おわりに ～税に対する理解を深めるために

新たな時代の動きに適切に対応した「あるべき税制」の具体化を進めていくためには、私たち一人ひとりが社会を支える税のあり方について主体的に考え、受益と負担のあり方について国民的な論議を深めていくことが重要です。

働き方の多様化等が進展し、納税者として税と関わる機会が増加する中、分かりやすい税制の構築とともに、制度への正しい理解を促進することも不可欠となってきています。

将来の社会を担う子どもたちが早くから税について学び、その意義・役割等について考える機会を持てるよう、学校教育をはじめ、家庭や社会教育の場において租税教育を更に充実させるとともに、若者を含む多様な世代が、税のあり方について自ら考え議論に参画できるよう、政府による積極的な発信も通じて、議論を喚起していくことが求められます。

今日、私たちが選択する税制のあり方が明日の社会の基礎となります。将来世代が希望ある社会のあり方を選択できるよう、公的サービスとそれを支える負担のあり方について、明日を見据えた一体的な議論を行うことが大切です。

本答申が税に対する理解を深めるための取組みにも活用され、私たち一人ひとりが社会のあり方について議論を尽くし、その実現のために必要な税制のあり方について考え、その先に、将来に希望が持てるような社会が実現されていくことを期待いたします。